

井上 琢斗

徳島県徳島市出身
三好市 / 2019年3月退任

Q1

協力隊になる前は何をしていたか？

大学と大学院で感染症を引き起こす菌の研究をしていました。大学院の途中、1年間ほど休学してカンボジアでインシブとして参加していました。カンボジアでは国立病院内で院内感染を予防するための物資の支援や、医療スタッフ向けの教育支援などをしていました。

Q2

なぜ徳島県の地域おこし協力隊になったのですか？

カンボジアへ行くために応募した奨学金の研修に参加した際、独特な経験をしてきた人達に出会い、置かれた環境に人差しが生まれるのではなく、周りにあるものをどううまく使いこなして自分のものにしていくかだと感じ、将来ずっと医療に携わるよりも地域の持つユニークな資産や資源をうまく使いこなせる人を育成したいという気持ちになりました。そんなことを考えながら大学院に戻ってきて過ごすうちに地域おこし協力隊の制度を知り、この制度なら理想の人材育成を試行錯誤しながら構築できるのではないかと思いい地域おこし協力隊になることを決めました。だから、特別にここがいいという場所はなく、牟岐町や神山町など何か所か候補に入っていました。その中で三好市は地域としておもしろい文化や自然が残っていて、さらに聞きに行った時の担当者の方がとても親切だったので応募しました。

Q3

実際に三好市に移住して暮らしてみてもいいですか？

三好市は地域の事業者が元気で、住民も自ら新しい何かをしようという気概に満ちた人が多いように思います。町のコンパクトさとその人たちのパッシ

ョンがうまく調和して、新しい動きが活発に起きていて、お祭りが常におきているように面白いです。

Q4

現役の時どんな活動をしていたか？

三好市は祖谷の秘境があるように自然資本に恵まれ古い伝統文化が形を変えずに残っています。現役中はそんな地域の面白い場所がチャレンジの場所にコーディネートできればもっと面白くなるのではないかと思います。いろんな仮説を立ててどんな形の学習プログラムをつくるか試行錯誤しました。

Q5

活動中大切にしていたことはありますか？

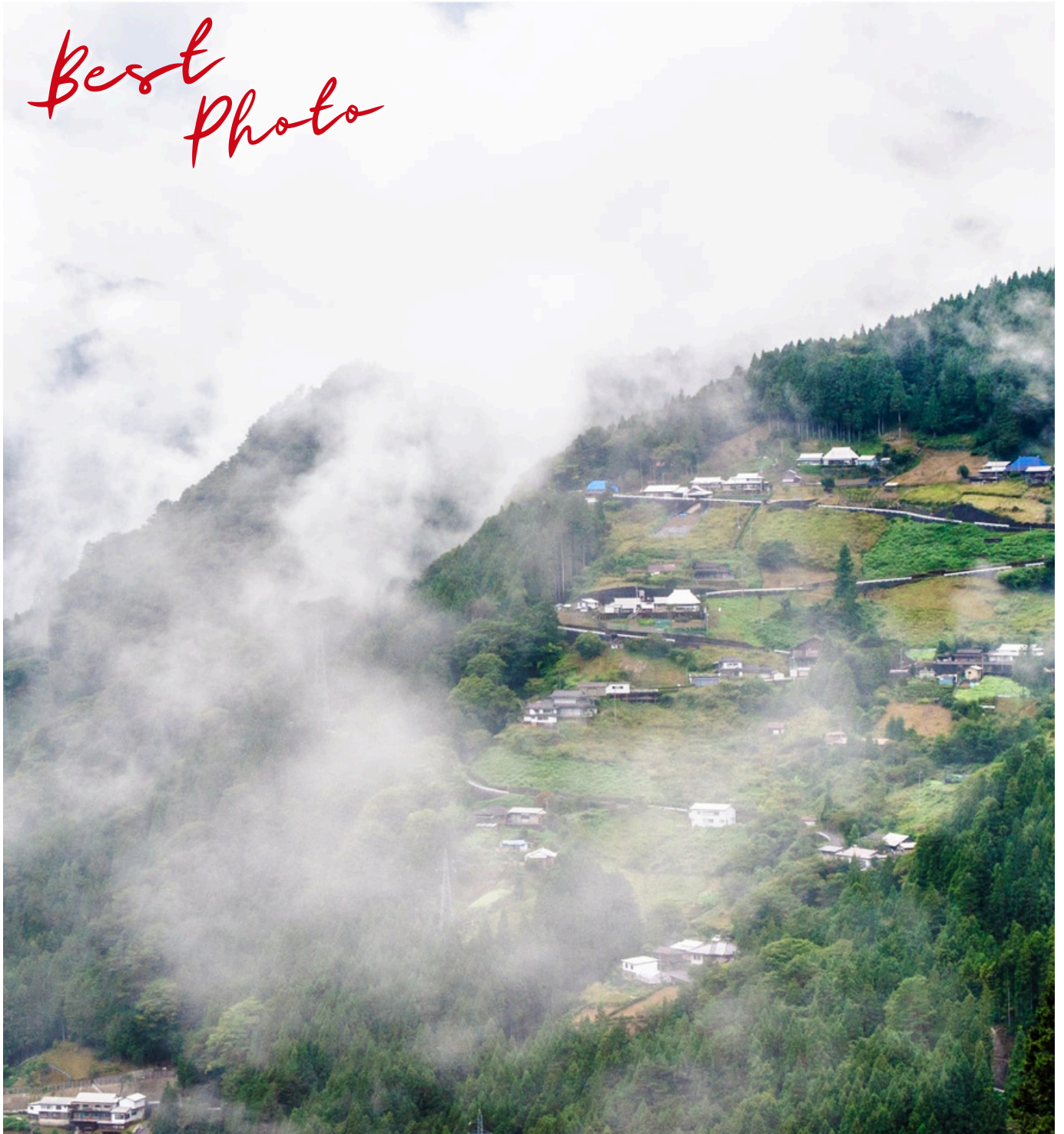
何にでも興味を持って行動してみても、共通言語や話題を持つことを大切にしていました。例えば、伝統農業を見真似てやってみて、その中で分からないことや失敗したことを地域の人に何度も何度も質問して関係を築いていきました。

Q6

退任後、現在はどんな活動をしていますか？

現役時代に様々な学習プログラムをやってみましたが、お客様は満足するけれど来てすぐ帰るので点の関係性になってしまいい地域側の負担も多く疲弊してしまつて持続的ではないと感じました。そのため、まずは受け入れる場所を用意しようと2019年に「古民家グランピングMATOBA」をオープンしました。しかし、コロナと同時にスタートだったため緊急事態宣言もありスタートしてしばらくは経営が大変でした。今はゲストハウスから貸切り宿に体系を変え順調に運営しています。また、池田高校で行われる探究学習の非常勤講師も現役時代から引き続きしていますが、学校の時間だけでは足りない、民間で自由に伴走支援をしたい

Best Photo



井上さんが三好市で一番好きな風景 落合集落から見た「栗枝渡集落」

と思い2023年4月に自主探究学習塾ティールを開校しました。この学習塾は「A1教材を使った学習」と「探究プログラム」の2本軸なのが特徴です。この学習塾を開校する前には、コロナ禍で学生が自主学習する場所がなくなっただけでもあり、無料の自習室をつくりそこでイベントを重ね地域にどんな需要があるのかを探りました。



自立探究学習塾ティール

Q7

これからやっていきたいことは何ですか？

今やっているそれぞれのビジネスを育てれば育てるほど選択肢が増え、掛け合わせで新しいものがどんどん生まれていきます。宿事業に関しては一般観光客向けに徳島、四国の風土を感じられる場所を増やし、塾事業に関してはいろんな学びに対してアプローチできるような場所づくりをしていきたいです。

Q8

徳島県の魅力は何だと思いますか？

水資源に恵まれ世界有数のアウトドアの聖地であることがとても魅力だと思います。この素晴らしい土地から生まれた文化や歴史、コミュニティは独自性があり、最高の学習環境です。